

生物系研究室卒業研究中間発表会報告

2015年10月25日（日）に環境システムマネジメント専攻の生物系研究室の卒業研究中間発表会が開催されました。この発表会ではプロジェクトと関連した研究を実施している学類4年生が4名研究発表を行いました。遅くなりましたが、4名の発表内容を簡単に報告します。ちなみに、今年度の生物系は全部で10名の4年生が発表しました。

木村研では阿達裕花さんが「裏磐梯桧原湖南部のブナ林から1888年泥流上にかけての森林遷移」とのタイトルで発表しました。1888年の磐梯山噴火の影響を受けた場所や受けなかった場所の現在の植生については、昨年度の石川和希君に引き継ぎでの研究です。

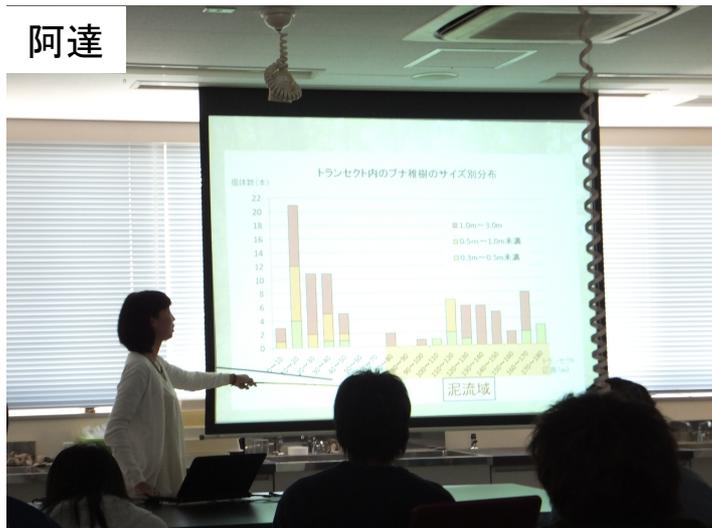
黒沢研では山口昌子さんが「国立公園にふさわしい別荘地とは？「五色沼くるみの森」の植物相」とのタイトルで発表しました。別荘地でありながら、国立公園内にあるため様々な制約があって人が利用し難い？という裏磐梯の不思議な場所での植物相調査結果を紹介してくれました。

兼子研では佐藤浩一君が「単為生殖種と推定されるチビコケカニムシの種内分子系統学的研究」とのタイトルで発表しました。既に今年度の日本動物学会大会でも発表された完成度の高い研究でした。日本に生息するチビコケカニムシが1種類ではないのは間違いないようです。

塘研では林宏至朗君が「表磐梯地域にある南ヶ丘牧場付近の池沼の底生動物相 ～水生植物が底生動物の分布に及ぼす影響～」とのタイトルで発表しました。塘研は裏磐梯地域の底生動物相を4年以上にわたって調査してきましたが、表磐梯地域での調査報告は初めてです。黒沢研の大学院生・首藤君に全面的に協力頂いた水生植物に関する結果と合わせて調査結果が報告されました。

毎年思うことですが、発表されたすべての研究の今後の展開が楽しみです。プロジェクトは今年度で終了しますが、磐梯・吾妻地域にはまだまだ生物に関わる課題がたくさんありますので、来年度以降も引き続きこの地域をフィールドにした調査や研究を実施して欲しいと感じました。

阿達



山口



佐藤



林

